

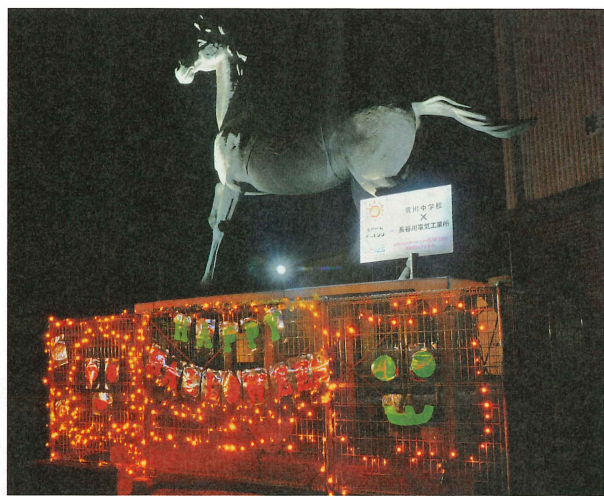
地域を明るく元気づけたいと、村上市荒川地区でこのほど地元中学生と事業者が連携するイルミネーションが実施された。荒川中学校3年生がSDGsの視点を取り入れつつ、地域事業者らと連携しながら貢献活動に取り組む「あらかわチャレンジ」の一環。

ハロウィンのイルミ装飾 R7沿いのシンボル馬へ 地域さらに明るく

荒川中「あらかわチャレ」で

く、丙午（みづのえ）の年に生まれた創業者とその逸話にちなむという同社シンボルの像。10月25日に中学生が訪問し、職員と共にLED電飾をめぐらせ、季節のハロウィンの装飾を加えた。

点灯電力は事業所敷地内に設置する太陽光発電パネルからまかなっている。クリーンエネルギーと「地域を明るく」。未来に向けた視線を重ねた。生徒の作業を見守った長谷川雄一社長は「他に候補が沢山あるなか（強みを活かせる）当事業所を選んできた」とし、企画のまとまりの良さに感心した様子。「当社のSDGsへの取り組みはエネルギーが中心だが、一方『誰も取り残さ



国道7号沿いに灯ったハロウィン仕様のイルミネーション

ない」と、地域で連携した貢献も大切。喜ばしいことだ」と目を細めた。点灯は10月25日から月末まで行われた。12月のクリスマスにかけても装飾を更替し約1週間ほどの点灯が予定されている。班長の蟹井結月さん（15）は「灯りで地域の人たちにあたためたい気持ちになってもらいたい」と期待した。



設置作業に汗流し